

## 小田原の神社・仏閣巡り

大稲荷神社(だいいなりじんじゃ) 小田原市城山 1-22-1

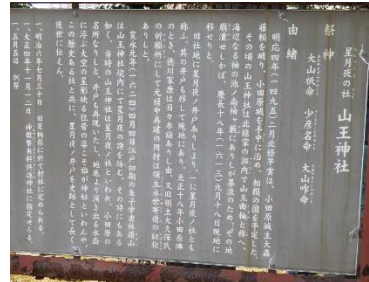
小田原城北条時代に修験者が建立し、天正 18 年 (1590) 初代大久保忠世が小田原城主となり京都伏見稲荷大社の最北座田中大神を合祀した。宝永 3 年 5 月 (1706) 現在地の谷津山に御社殿を造営。※宝永 8 年 (1711) 四月正一位神位宣命、正一位大稲荷大明神と奉称



いくつかの鳥居を潜り本殿までいく。様々な灯籠や、神狐の石像なども祀られている

山王神社 小田原市浜町 4-30-15

創建年代等是不詳ながら、小田原北条氏の頃は山王篠曲輪・篠曲輪・出曲輪などと称された地に鎮座、豊臣秀吉の小田原城攻めに際しては、徳川家康が当地に陣を敷き、当社に参詣したと伝えられます。(境内掲示)



朱子学者の林羅山が当社で星月夜の詩を詠んだことから星月夜の社と称された

北條稲荷 小田原市浜町 4-25

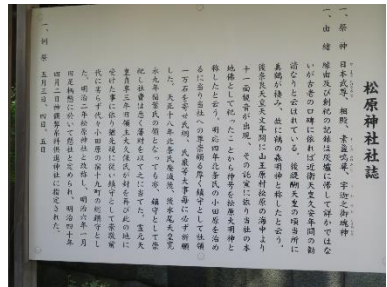
北条 3 代北条氏康が亡くなったのは、小田原城内で死んだ老狐の霊が家臣に乗り移り、身辺に不幸を起こしたからだろうと考えた氏康の子・北条 4 代北条氏政が城内に老狐の霊を祀って供養をしたのが北条稲荷の起こりと伝えられています。元々は、小田原城内にあった神社のようです。(諸説あり) 境内には蛙石 (かわずいし) と呼ばれる自然石があり、小田原の危機の際には、必ず鳴き声を発すると言われています。



狐(囲いの中)の霊を鎮める為に供養したのが北條稻荷の起源。年代もの蛙石（かわずいし）

松原神社 小田原市本町 2-10-16

北条氏が小田原を治めるようになると、社領を寄進するなど代々当社を崇敬した。天文 14 年（1545 年）3 月、小田原海岸に現われた大亀を土地の者が当社の池に持参したところ、北条氏康は吉兆として参詣、鏡を取寄せて亀の甲に置き、亀鏡としたと伝わる。



松原神社例祭は小田原最大の祭りで、多古保存会が神奈川県無形文化財に指定されている

居神社(いがみじんじゃ) 小田原市城山 4-23-29

主祭神は三浦義意で三浦半島を本拠に相模國を治めた三浦氏の最後の武将であったが、小田原の北条軍に敗れ自害した。その首が三浦半島から小田原まで飛んできて古松の枝に引っ掛かり 3 年にわたり通行人を睨めつけていたという。それを聞いた小田原総持寺の忠室和尚が祠を建てて霊を祀ったのが当神社と伝えられている。そして、二代將軍北条氏綱公の「北條氏綱置文」より「勝って甲の緒を締めよ」の一節を刻む。日本で最初にこの格言を世に出したのは氏綱公と言われています。(境内掲示)



お抱え御城大工、香川文造高之が明治 21 年に製作した御神輿がある神社